「90度のまなざし」
油彩 2003年 作家蔵

講演会
10月25日（土）午後2時～
対談：唐十郎（劇団唐組 主宰）＋合田佐和子（作家）
「花と嵐」

Sawako Goda
合田佐和子 影像
Schattenbild
—絵画・オブジェ・写真—
1958-2003

2003年10月14日（火）—11月24日（月・祝）

休館日／10月20日（月）、27日（月） 11月4日（火）、10日（月）、17日（月）
開館時間／午前9時-午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料／一般300（240）円、小中学生100（80）円
（ ）内は10人以上の団体料金　65才以上の方及び障害者の方は無料　土曜日は小中学生無料

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art
渋谷区松濤2-14-14 TEL:03-3465-9421 FAX:03-3460-6366
JR渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

Sawako Goda
合田佐和子 影像
Schattenbild
—絵画・オブジェ・写真—
1958-2003

合田佐和子（1940年高知県生まれ）は、比類ない作品を編み出し続けてきたアーティストです。

空襲の焼け跡が幼い頃の原風景だったという合田は、街やあき地にガラスや金属の廃品のきらめきを見つけ、集め紡いで、不思議な物体を作りました。ニューヨークの骨董店に積み上げてあった古い写真、映画雑誌の俳優たちのグラビアに出会うと、それらのポートレートを「出来るだけ忠実に描きたい」と油彩画を始めます。

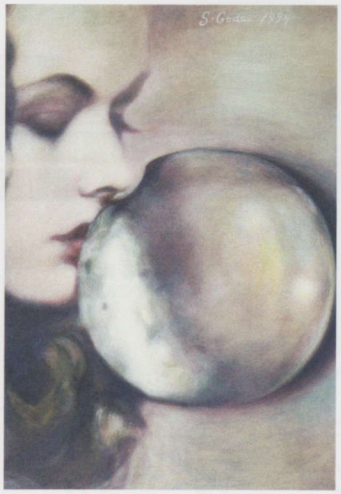
こうした70年代までの合田の仕事は、消費された工業製品、消費された影像の奥に隠されている、決定的な欠損、凶暴なまでの情動を見つけ、崩壊の予感とともにどこかクールな手つきで引きだしたものです。詩人・瀧口修造、高橋睦郎、演劇人・唐十郎、寺山修司をはじめ、合田佐和子とその作品は多くの人々を魅了しました。

そして80年代、作家は大きな転換期を迎えます。古代エジプト文化と出会い、鉱物、結晶体、レンズ、陽光のプリズムに身を寄せるうち、森羅万象にこちらを見返す無数の眼球を感じ取るようになり、合田は物質的なものの彼方にある、精神世界を予感し始めました。

彼女は写真を手段にして異次元への通路を探索します。小さな花や貝の奥にクローズアップのレンズを向けて異界への扉を見いだし、女優の写真像を描きとるうちにオーロラのような影を湧き立たせ、異次元へ移行せんとするヒトの未来像を描こうとしているのです。

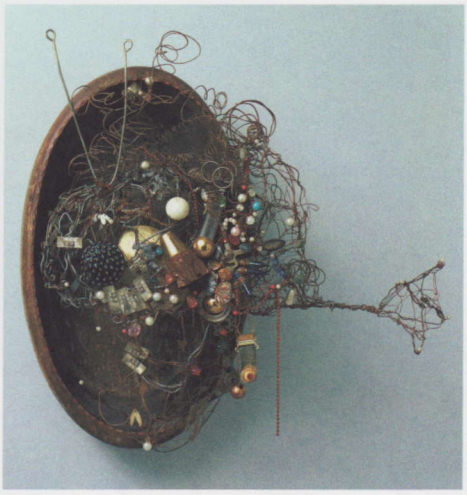
本展は、絵画、オブジェ、写真等、約150点の作品に演劇美術等の資料を加え、多ジャンルを横断する合田佐和子の全体像を、「影像」を手掛りに紹介しようとするものです。花と嵐の果て、終末のあとに、ひとりの作家からの贈り物をどうかお受け取り下さい。

「巻貝の夢」 写真 1992年 作家蔵



「ベロニカの夢 A」 油彩 1994年 作家蔵

「ジョン・クロフォード 1931年」
油彩 1975年 高橋龍太郎氏蔵



「夢の錆 I」 オブジェ 1963年 佐野画廊蔵

講演会

10月25日（土）午後2時より
対談：唐十郎（劇団唐組 主宰）＋合田佐和子（作家）「花と嵐」

ギャラリートーク

10月22日（水）および11月12日（水）両日とも午後2時より（当館担当学芸員）

美術相談

10月18日（土） 午後2時より
講師 宮田翁輔（油彩）、北尾和子（水彩）
11月1日（土） 午後2時より
講師 遠藤原三（油彩）、内山懋（油彩）

美術映画会

11月15日（土） 午後2時より
ルイス・ブニュエル監督「アンダルシアの犬」
1929年（サイレント）
「京都の魅力」シリーズより「西陣織 京友禅」

JR渋谷駅下車徒歩15分
京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

渋谷区松濤2-14-14 TEL:03-3465-9421 FAX:03-3460-6366

次回展予告 谷中安規 12月9日(火)－2月1日(日)